

# 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の概要

## 事業の目的

- ◆ 全国的な子供の体力や運動習慣等の状況を把握・分析することにより課題や好事例等を明らかにし、国の施策の改善に活かすとともに、各教育委員会や各学校単位での分析を促すことにより、各教育委員会及び各学校における子供の体力向上に向けた指導の改善に役立てることを目的とする。

## 事業概要

- ◆ 小学5年生と中学2年生に対する実技調査及び質問紙調査、学校及び教育委員会に対する質問紙調査の実施（調査票の作成・配送・回収・入力・集計）、調査結果の分析、学校等における取組事例の取りまとめ、結果の提供等を実施。
- ◆ 実施形態：民間業者への委託

「スポーツ基本計画」(平成24年3月30日)文部科学省  
1. 学校と地域における子どものスポーツ機会の充実  
政策目標：

子どものスポーツ機会の充実を目指し、学校や地域等において、すべての子どもがスポーツを楽しむことができる環境の整備を図る。

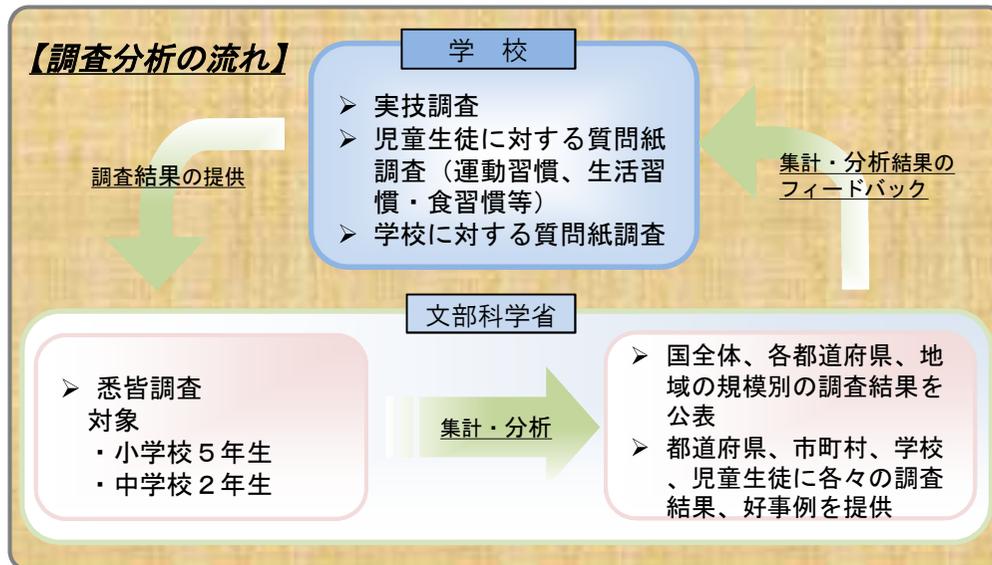
そうした取組の結果として、今後10年以内に子どもの体力が昭和60年頃の水準を上回ることができるよう、今後5年間、体力の向上傾向が維持され、確実なものとなることを目標とする。

### (1) 幼児期からの子どもの体力向上方策の推進

#### ① 施策目標

「全国体力・運動能力等調査」等による検証を行いつつ、子どもが積極的に運動遊び等を通じてスポーツに親しむ習慣や意欲を養い、体力の向上を図る。

## 【調査分析の流れ】



## 【継続的な検証、改善】

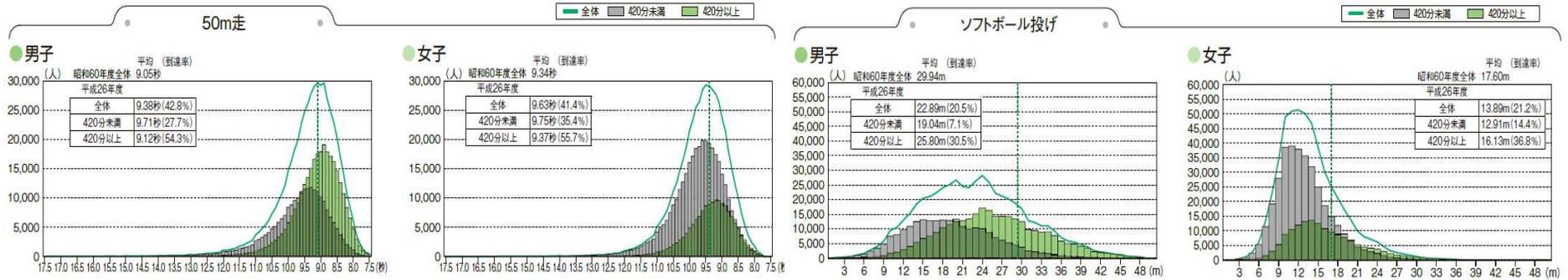
国が全国的な状況を把握・分析し、施策の成果と課題の検証、改善への活用

各教育委員会による検証、子供の体力向上施策への活用

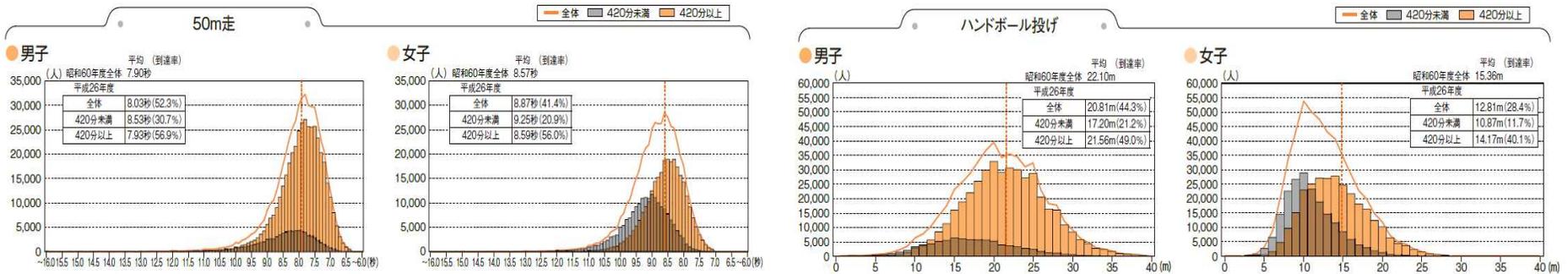
各学校における検証、体育・健康に関する指導などの改善への活用

# 子供の体力の状況(例)

【小学校】 ※グラフ中の縦の点線は昭和60年度の平均値、表中の到達率は昭和60年度水準到達率



【中学校】 ※グラフ中の縦の点線は昭和60年度の平均値、表中の到達率は昭和60年度水準到達率



(参考)

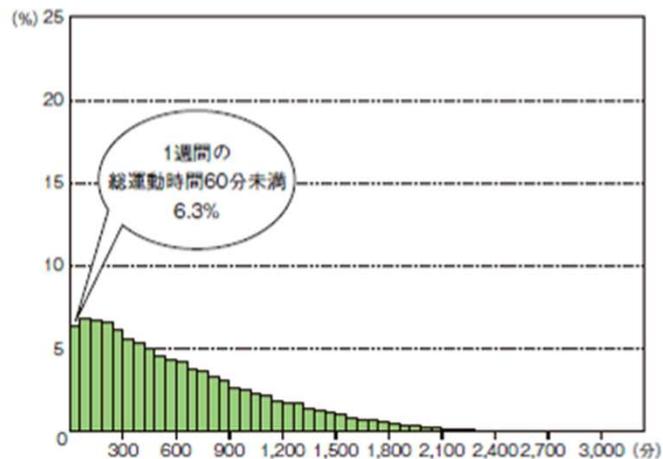
世界保健機関(WHO)では、「1日当たり60分の中～高強度の身体活動を毎日行うこと」を推奨している。

# 子供の運動習慣の状況(運動時間の例)

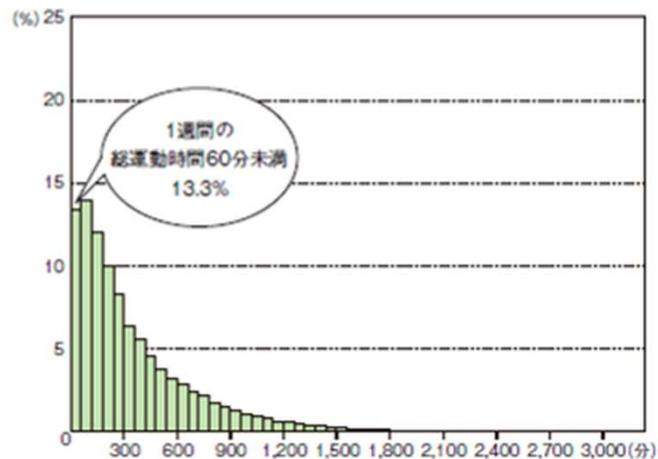
## 1週間の総運動時間の分布

### 【小学校】

● 男子

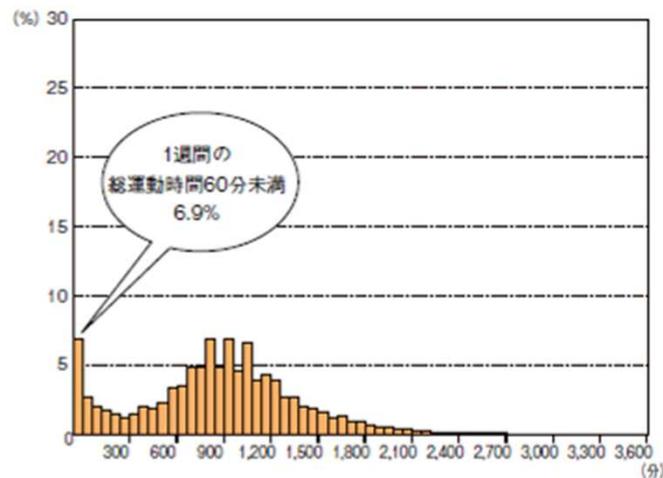


● 女子

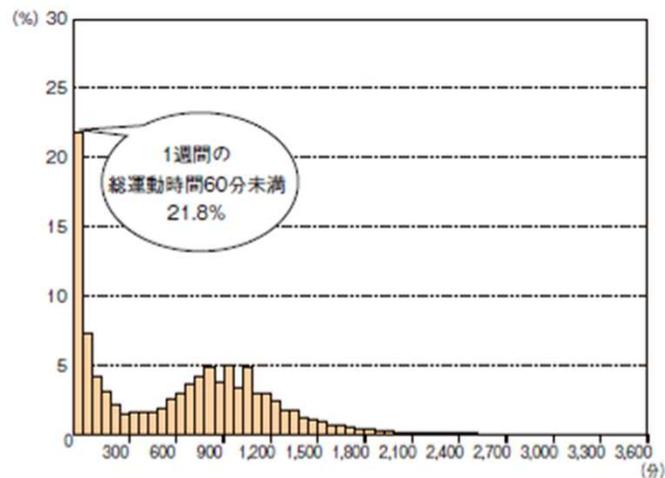


### 【中学校】

● 男子



● 女子



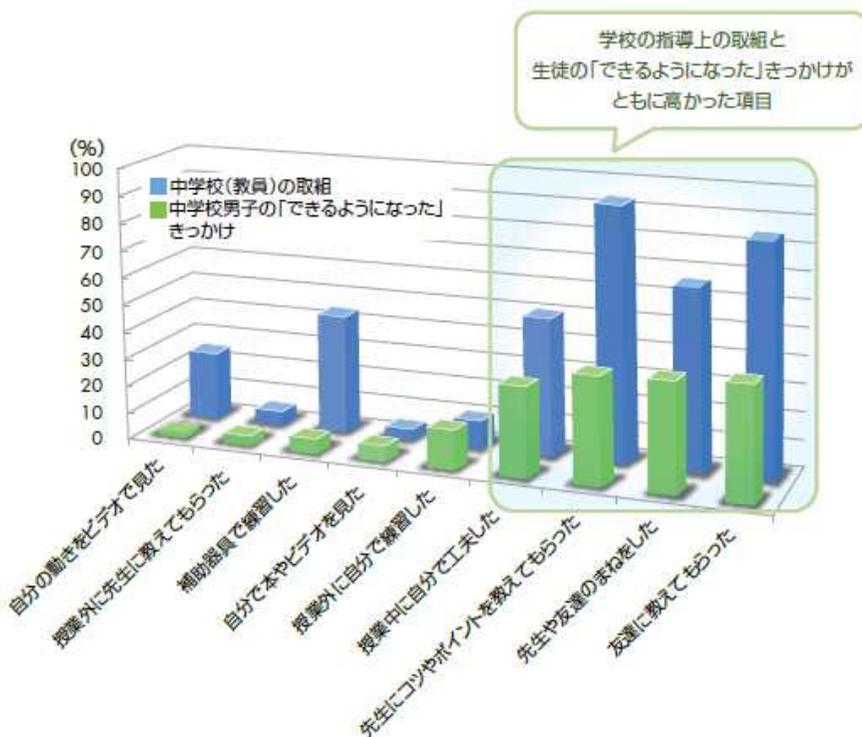
# 分析結果と取組事例 ① ー体育・保健体育の授業の充実ー

## 分析結果

### 【「できるようになった」きっかけと学校の取組】

中学校男子の、保健体育の授業で「できなかったことができるようになった」きっかけの上位4項目は、保健体育の授業で努力を要する生徒がいる場合の教員の取組内容においても上位を占めている。

(小学校男女及び中学校女子も同様)



## 取組のポイント

- 新体カテストやアンケートの分析結果を授業内容へ反映させる
- 「わかる」「できる」楽しさの実感で運動への主体性を育む
- ICT機器の有効活用で授業の充実に取り組む

### □ 主体的に運動する子供の育成

(姫路市立別所小学校)

- ① 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から課題を分析
- ② 体育専科教員の活用による授業の効率化、運動の習慣化
  - ・学習カードの活用、タブレット端末を活用し自分の動きを確認、互いにアドバイス
- ③ 楽しさ等を体感、自ら体を動かす児童の増
- ④ 今後、継続的にどう意欲を高めていくか工夫が必要



### □ 豊かなスポーツライフの基礎を育む保健体育の学習

(大館市立第二中学校)

- ① 運動をする子供としない子供の二極化や生活習慣の乱れが課題
- ② 保健体育の指導方法の工夫・改善、部活動での活用
  - ・体力調査の結果を学年ごとに掲示し、体力の興味や意識を向上
  - ・生徒会主体で自分たちの生活を振り返る機会を設ける
- ③ 体力合計点が大幅に増
- ④ 今後、さらに生徒の実態に即した単元指導計画の修正が必要
  - ・体力向上に向け、生徒が自主的に課題解決できるよう促す
  - ・家庭・地域への働きかけが必要



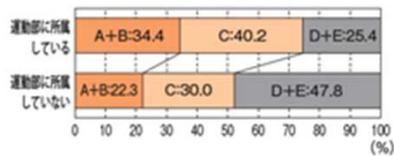
# 分析結果と取組事例 ② 一部活動の充実

## 分析結果

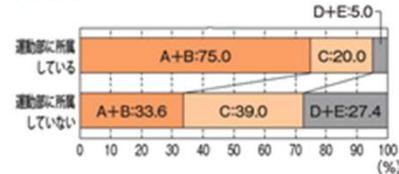
【運動部活動所属の有無と体力総合評価との関係：中学校】  
 運動部活動に所属している生徒は体力の高いものが多く、低いものは少ない。

特に女子は、運動部活動に所属する生徒の体力総合評価A+B率は、所属していない生徒の2倍以上であり、D+E率は5分の1以下であった。

### ●男子



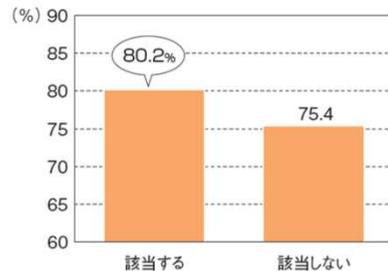
### ●女子



【学校の運動部活動に対する取組と運動部活動加入率との関係】

「より多くの生徒が活動しやすい運動部活動の運営・指導の工夫改善を行った(行う予定である)」と回答した学校は、運動部活動加入率が高い。

### ●男子



## 取組のポイント

point

- いろいろな運動やスポーツに親しむ機会をつくる
- 目標をもって部活動に取り組む
- 部活動の活動内容をひと工夫する
- 好きそうで、できそうな運動やスポーツを行える場を提供する

□ 心豊かにたくましく生きぬく児童を育てる学校をめざして  
 (習志野市立津田沼小学校)

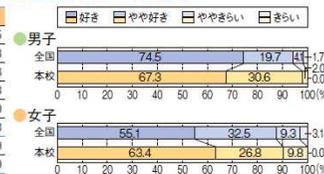
- ① 投力、握力、瞬発力等の体力の低下は大きな課題
- ② 体育の充実、余暇活動(朝と昼休み)の充実、業間体育、運動部活動の実施、体育的行事の充実、研修の充実  
 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえて、余暇活動の一部に50m走などを取り入れ
- ③ 平均だけでなく、体力合計点の低い児童が減り、底上げ
- ④ 今後、学校と地域(近隣の保育所や中学校、スポーツクラブなど)との連携が必要

### 本校の結果

#### ●体力合計点と運動時間

	男子	女子
体力合計点(点)	57.4	60.5
A	20.4	26.8
B	26.5	48.6
D	6.1	7.3
E	2.0	0.0
AB-DE	38.8	68.3
1週間の総運動時間(分)	555.8	370.0
60分未満の割合(%)	6.0	15.0

#### ●運動やスポーツが好き



#### ●授業外に行う運動やスポーツ



□ 年間を通した陸上練習を中心に生徒の体力を向上させ、部活動の活性化を図る

(日立市立河原子中学校)

- ① 活動に対するモチベーションの維持が課題
- ② 年間を通した体力作りの場の設定、家庭・地域と連携した支援  
 ・各部横断的な取組(文化部も参加)、特設陸上部の設置
- ③ 文化部の生徒も意欲的に運動に取り組むなど体力が向上
- ④ 今後、それぞれの取組を外部に発信し、生徒の自信につなげることが大事

### 本校の結果

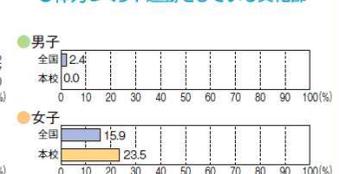
#### ●体力合計点と運動時間

	男子	女子
体力合計点(点)	53.2	60.1
A	37.5	72.7
B	41.7	15.2
D	4.2	6.1
E	0.0	0.0
AB-DE	75.0	81.8
1週間の総運動時間(分)	1172.2	740.1
60分未満の割合(%)	0.0	9.0

#### ●運動やスポーツが好き



#### ●体力づくりや運動をしている文化部



# 分析結果と取組事例 ③ 一家庭や地域でもっと運動をするようになる条件整備一

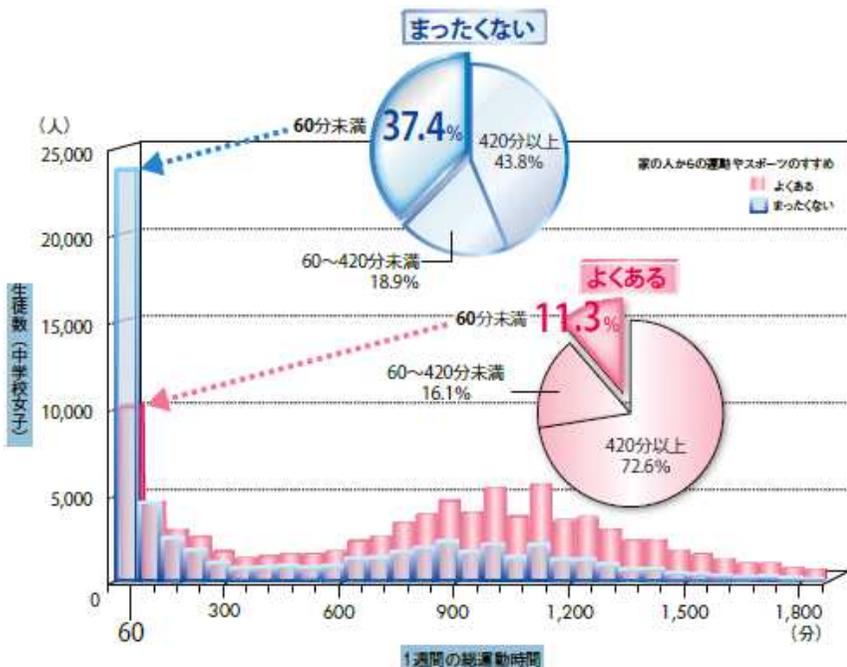
## 分析結果

【家の人からの運動やスポーツのすすめと1週間の総運動時間（中学校女子）】

中学校2年生女子で、家の人からの運動やスポーツのすすめが、「まったくない」群では、1週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合は37.4%、「よくある」群では11.3%であった。

一方、1週間の総運動時間が420分以上の生徒の割合は、「まったくない」群で43.8%、「よくある」群で72.6%と、家の人からの運動やスポーツのすすめがあるほど、運動時間が長い生徒の割合が高かった。

中学校男子、小学校男女でも同様の傾向がみられた。



## 取組のポイント

point

- 教職員が一体となって、全校で取り組む
- 「健康」をキーワードに、地域や家庭にアプローチする
- 多様な種目を行える運動部活動を設置する

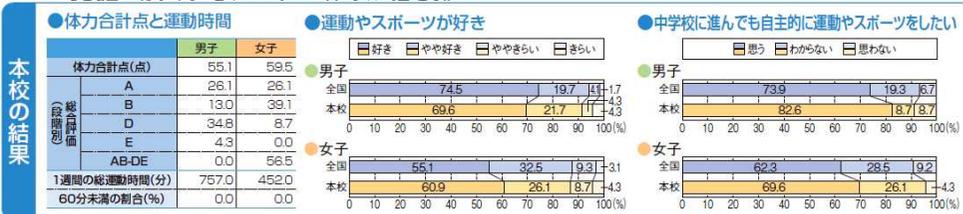
### □ 地域・家庭を巻き込んだ体力の向上の取組 (阿賀野市立笹神中学校)

- ① 少子化等により部活動の顧問不足など、地域・家庭連携による取組の必要が増加
- ② 地域住民により部活後援会を組織、生活習慣の把握と全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を健康管理等の指導に活用、PTA主催の親子スポーツ活動
- ③ 運動に対する意欲の増
- ④ 少子化により、更なる活動の見直し、継続的に地域の協力が得られる体制づくりが必要



### □ 運動に親しむ条件整備—サークル型運動部活動と全校体育の取組— (御船町立御船小学校)

- ① 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の多くの種目で県平均を下回っている
- ② サークル型運動部活動の設置、日常活動の取組  
・運動に苦手意識をもつ児童が取り組みやすいよう、地域のスポーツ指導者に依頼し、ニュースポーツを中心に活動
- ③ 県平均を下回る種目が減少、運動に対する興味・関心が向上
- ④ ボール投げと上体起こしについては、さらに向上が必要。人的資源の発掘・導入するシステム作りが必要。



# 分析結果と取組事例 ④ ー生涯にわたって運動やスポーツをしようとする意欲ー

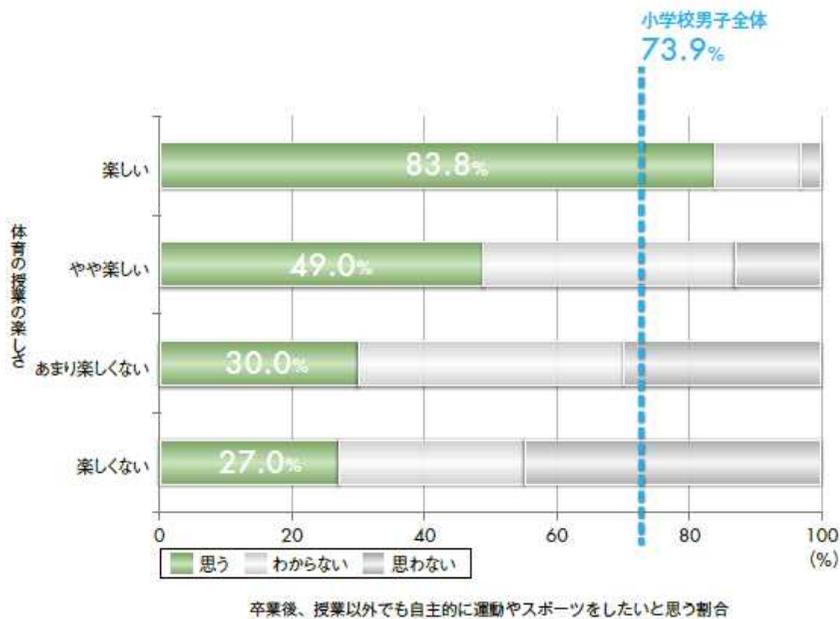
## 分析結果

【体育の授業の楽しさと卒業後も運動やスポーツをしようとする意欲（小学校男子）】

卒業後も自主的に運動やスポーツをしようと思う割合は、小学校5年生男子全体で、73.9%であった。

体育の授業に肯定的な意識をもつほど、その割合が高く、特に「授業が楽しい」と回答した群は83.8%と、他の群の平均を大きく上回った。

小学校女子、中学校男女でも同様の傾向がみられた。



## 取組のポイント

point

- 朝の時間帯や休み時間を利用した定期的な運動プログラムの提供
- 児童生徒が自分自身で工夫し、自主的に取り組めるようなしなげ
- 学校生活全体を通じた様々な時間・空間・仲間との運動やスポーツの機会の提供
- 体育的行事や運動部活動を通じた家庭・地域との連携

### 運動に意欲的に取り組むための手立て (利根町立布川小学校)

- ① 運動に対する意欲の二極化と投力の低下が課題  
活動そのものの楽しさ、「できた」という達成感を味わうことを模索
- ② 的当て・的抜き、BGMやマラソカードを活用した業間マラソン・ゲーム性を持たせ、達成感を得やすい工夫
- ③ 他人との比較ではなく、自らの記録との向き合うことなどにより、運動に対する意欲が向上
- ④ 取組にもかかわらず、活動に参加しない児童への対応を検討する必要

### 本校の結果



### 生徒、保護者、地域、教職員の連携した取組によるスポーツ環境の構築 (奄美市立名瀬中学校)

- ① 部活動加入率が低く、運動機会が少ない。学校と地域の連携も不十分。
- ② 生徒会による自主活動、保護者・地域の人に参加できる体育的行事への見直し、温水プールを活用し他校との交流を推進、地域の協力を得て、部活動のない種目・活動をサポート
- ③ 地域とのつながり(アドバイスや褒められる)から、運動に対する意識が向上
- ④ 今後、小学校との連携も図り、活動に系統性を持たせることが必要

### 本校の結果

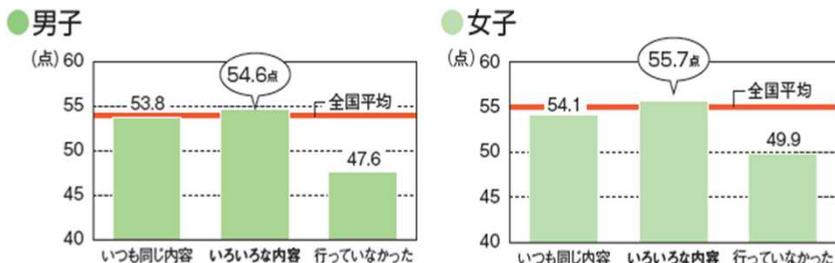


# 分析結果と取組事例 ⑤ — 幼少期の多様な運動経験 —

## 分析結果

### 【幼少期の多様な運動経験と体力合計点との関係】

幼少期の運動経験について、「いろいろな内容の体を動かす遊びを行っていた」と答えた児童の体力合計点の平均は男子で54.6点、女子で55.7点と最も高く、次いで「いつも同じ内容」と回答した男子で53.8点、女子で54.1点であった。これに対して、「体を動かす遊びは行っていなかった」と回答した児童が、男子で47.6点、女子で49.9点と全国平均を大きく下回っていた。



## 取組のポイント

- 保幼小が連携して、継続的な視点で子供を捉えていく
- 保育所・幼稚園と学校での取組を、保護者や地域住民に発信する
- おもしろくのめり込む体を動かす遊びの実践が運動の持ち越しにつながる
- 保育士・教員・保護者がプレイリーダーの役割を担う

### □ 保幼小連携による体力の向上についての取組 (標津町教育委員会)

(1) 遊ぶ・動く楽しさを体験するプログラムの考え方

(2) 具体的内容

- ・保幼小へプレイリーダーを派遣
- ・関係者の研修会の開催
- ・子供の基本的な動きの測定
- ・親子ふれあい広場の開催



### □ 「やってみたい」「なってみたい」が子供を育てる (雲南市教育委員会)

(1) 雲南市幼児期運動プログラムの作成

(2) 子供の「遊びたい」という気持ちを引き出す保育者のスキルアップ

(3) 「わくわくうなんピック」(幼児の体力測定)でデータ収集・効果検証



▲バランスの測定をしている様子



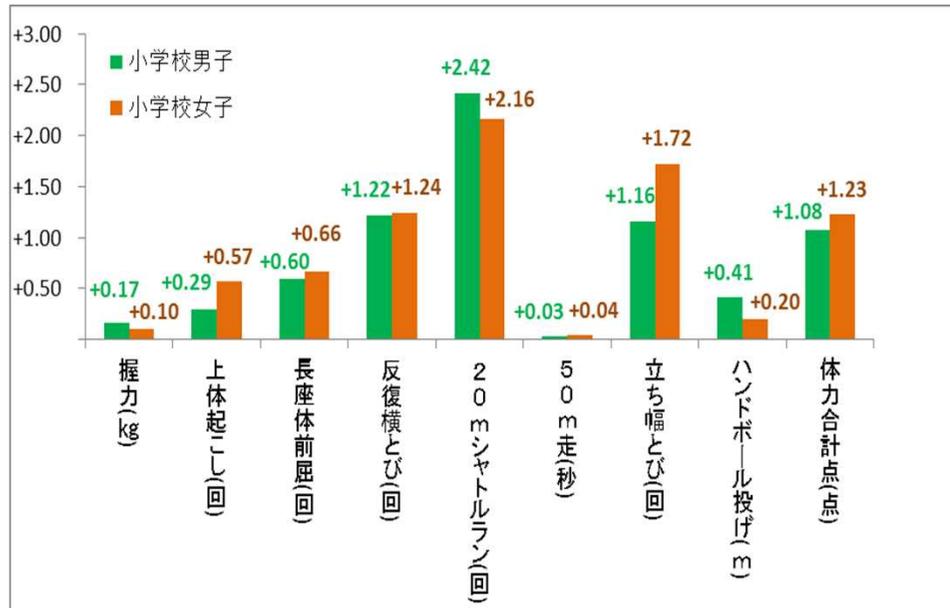
▲どうやったら的に当てられるのかな？

## 都道府県の取組事例 —群馬県—

### 群馬県の課題

- 平成24・25年度調査において、中学校では男女ともに、ほとんどの種目で全国平均値を上回るものの、小学校では男女ともに、ほとんどの種目で全国平均値を下回っている。
- 調査結果を踏まえた取組が少ない。

◇実技調査における前年度結果との差（平成26年度平均値－平成25年度平均値）



### 群馬県の体力向上の主な取組

「ぐんまの子どもの体力向上推進事業」の推進

- 体力向上プランの作成・実施
  - 県内すべての小学校・中学校において、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果等に基づく自校の体力向上プランを作成し、年間を通して体力向上に係る取組を実施する。
- モデル校における体力向上の取組の実施
  - 体力向上推進校を選出。
  - 地域人材等を活用して、学校の教育活動全体を通じた体力向上の取組の実施。

### モデル校の取組例

(伊勢崎市立宮郷第二小学校)

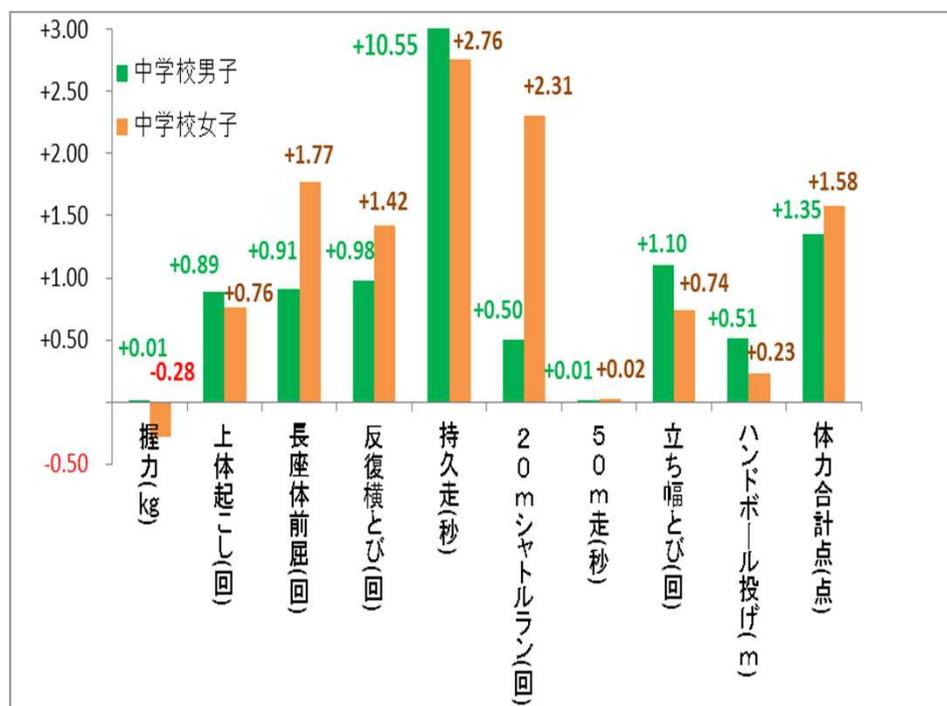
- 学校独自の運動DVDを作成し、各家庭に配布予定。
- 体育便りを毎月発行し、家庭での運動に対する意識を高める。
- 「元気アップカード」を作成し、児童の健康や運動に対する意識を高める。

## 都道府県の取組事例 — 奈良県 —

### 奈良県の課題

- 平成25年度調査において、小学校は全国平均であったが、中学校は全国平均を下回っていた。

◇実技調査における前年度結果との差（平成26年度  
平均値－平成25年度平均値）



### 奈良県の体力向上の主な取組

#### (1) 体力向上推進計画の作成等

各学校に対し、毎日運動する時間の確保や一校一運動の実施などを含む「体力向上推進計画」の作成を指示。また、体力低下原因を探り、向上に向けての取組を推進するため「体力向上推進プランニングシート」の作成を推奨。

#### (2) 体力向上支援プログラムの作成

「元気な大和っ子をはぐくむ体力向上支援プログラム（DVD教材を含む）」及び「体力向上指導マニュアル」を作成し、各学校での活用を促す。

#### (3) 体力向上推進連絡会の設置と各種事業の実施等

- 小学校に対する新体力テストの測定支援
- 運動の特性や面白さが体感できる機会として「夏休み大和っ子スポーツウィーク」の開催（小学生水泳教室・小学生陸上競技記録会・学童水泳記録会・親子ソフトテニス教室・小学生空手道教室・小学生柔道教室）
- 「外遊び、みんなでチャレンジ」として、児童が仲間とともにチャレンジできる運動を県ホームページに紹介し、各学校の取組を促進

#### (4) 中学生体力向上支援事業

中学生の体力向上を目指して、地域の大学と連携し、授業や運動部活動で活用できる「体力を高める運動マニュアル」を作成・配布。

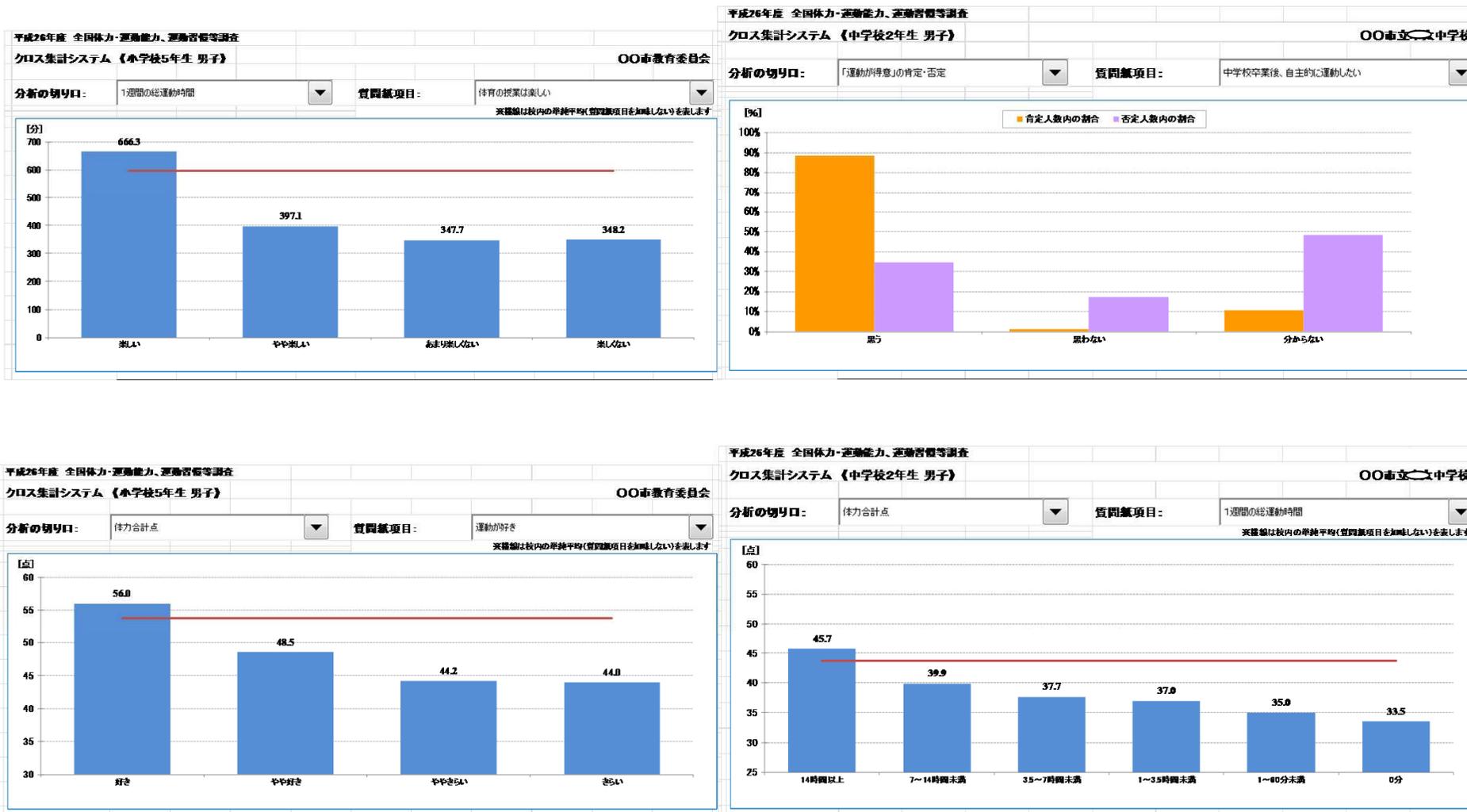
また、各学校に対して、体力向上に係る教職員の意識や指導力を高めるために、指導主事等の派遣や中学校体育研究会と連携した授業研究等の取組を進めている。





# 各教育委員会や各学校単位での分析等を促す工夫例③

## ＜調査結果CDによるクロス集計システムの分析例＞



## 体力・運動能力、運動習慣等調査に関する要望等

政策集2014 Jファイル

学校における体育の充実を図るとともに、運動部活動における体罰を根絶し、運動部活動を充実します。また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査を悉皆で行うとともに、調査結果の活用による子供の体力向上の取り組みを推進します。

自由民主党/政務調査会（平成26年12月1日）

文教予算に対する提案要求

○対象となる学年の全ての児童・生徒が参加できる「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を実施すること

<現状・課題>

(3) 平成20年度・平成21年度に実施された、小学校5年生及び中学校2年生の大規模調査は、都道府県単位、区市町村単位及び各学校の特徴を示す有効な調査であり、これまでの抽出調査にない分析を行うことができる極めて有益な全国調査である。

(4) 平成22年度・平成24年度に行われた抽出による体力調査では、児童・生徒の体力の全体傾向を把握するだけにとどまることになる。本来の調査目的である児童・生徒一人一人に対して調査結果を還元し、個々の体力向上を図るとともに、各学校における体育の授業改善等に役立てることが必要である。また、抽出により調査を行うことができない児童・生徒が出ることは平等性に欠けるため望ましくない。

<具体的要求内容>

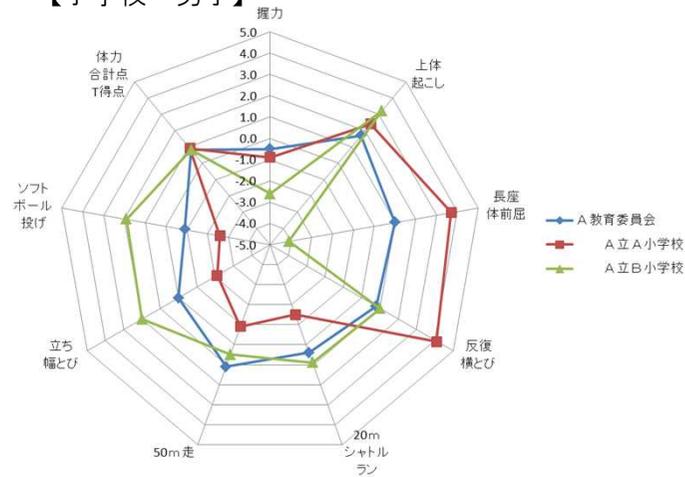
平成22年度・平成24年度は、当該学年の全国約20%の児童・生徒に対し、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」が実施されたが、児童・生徒の体力が長期的に低下している現在、単に全国的な傾向を把握するための抽出調査ではなく、対象となる学年の全ての児童・生徒が参加できる調査として、実施すること。

東京都教育委員会教育長（平成25年11月）

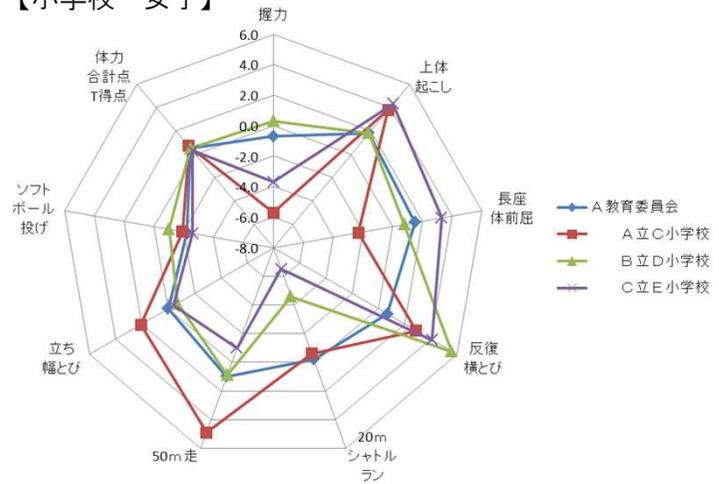
# 同じ設置主体の学校の体力・運動能力の傾向の差異

＜同一自治体で、ほぼ体力合計点と同じ学校の各種目の得点内訳＞

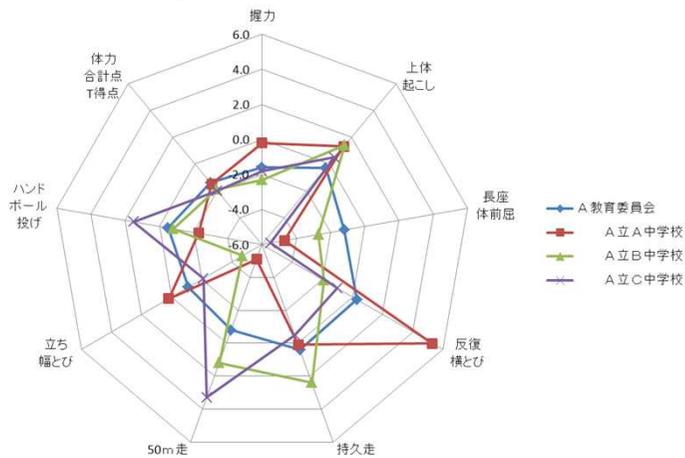
【小学校・男子】



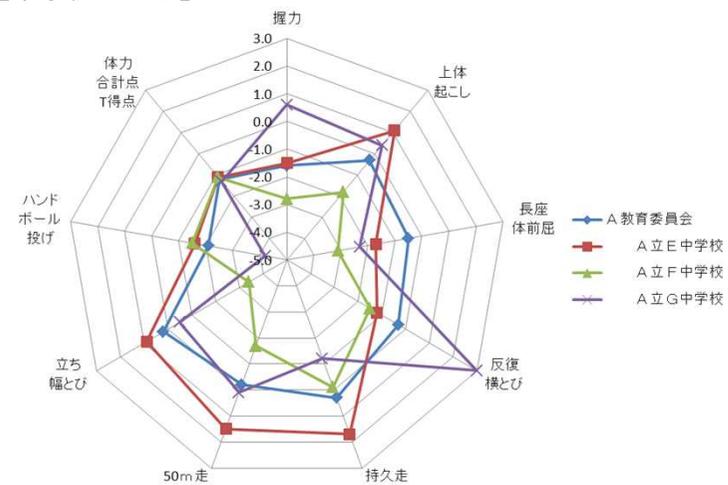
【小学校・女子】



【中学校・男子】



【中学校・女子】



同じ環境かつ体力合計点と同じ学校であっても、各種目の傾向には差があり、個々の学校がそれぞれの分析やそれに応じた対策を行うことが必要。

## 調査結果を踏まえた国の施策の改善例

### 【分析結果例】

子供の体力は、低下傾向に概ね歯止めがかかっているものの、昭和60年頃と比較すると、依然として低い状況。

小学校入学前にいろいろな内容の体を動かす遊びをしていた小学校女子は、していなかった児童に比べて体力総合評価が高い。

中学校女子のおよそ5人に1人は、1週間の運動時間が60分未満(授業を除く)であり、その7割弱(全体の約15%)は、運動時間が0分であった。

### 【対応施策】

- 地域を活用した学校丸ごと子供の体力向上推進事業の実施
- 学校体育活動における指導の在り方調査研究の実施

- 幼児期の運動に関する指導参考資料(DVD及び冊子)の作成及び配布

- 女子生徒の参加しやすい運動部活動づくり等の多様な運動部活動づくりに向けた指導内容・方法の工夫改善の実践事業の実施

# 「子供の体力の向上」関連の国の施策 — 全国的な子供の体力の状況の把握・分析結果の活用 —

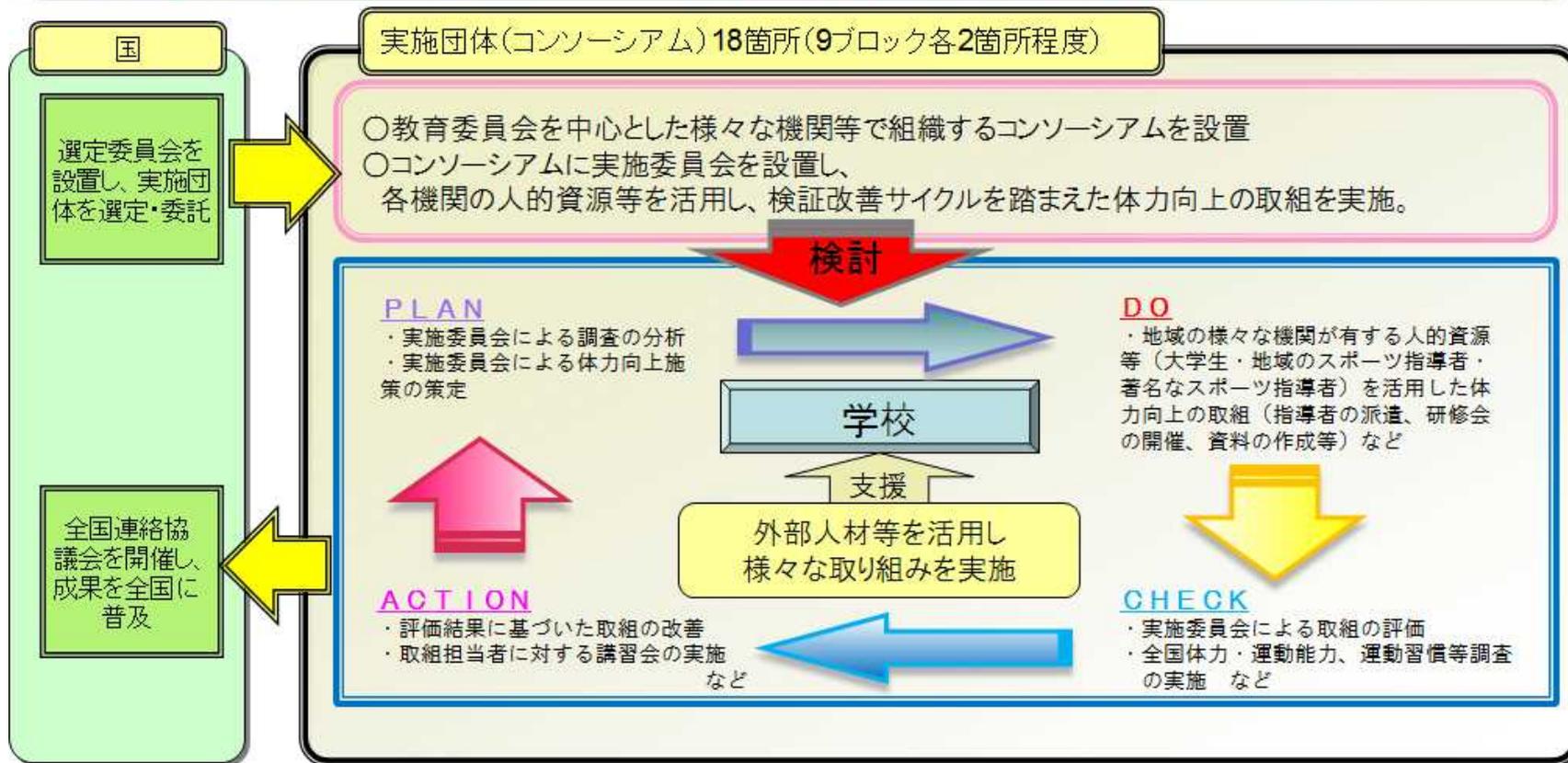
## 地域を活用した学校丸ごと子供の体力向上推進事業【拡充】

(前年度予算額 101,203千円)

27年度予算額 129,195千円

### 子供の体力の現状と課題

- 子供の体力は、概ね低下傾向に歯止めがかかっているものの依然として、昭和60年代に比較すると、低い状況
- 近年は、積極的にスポーツをする子供とそうでない子供の二極化が顕著
- 運動習慣が身に付く前に運動嫌いになっている子供もいる状況
- 運動嫌いのつまづきを解消し、積極的にスポーツに取り組む態度を育成し、体力を向上をさせることが大きな課題



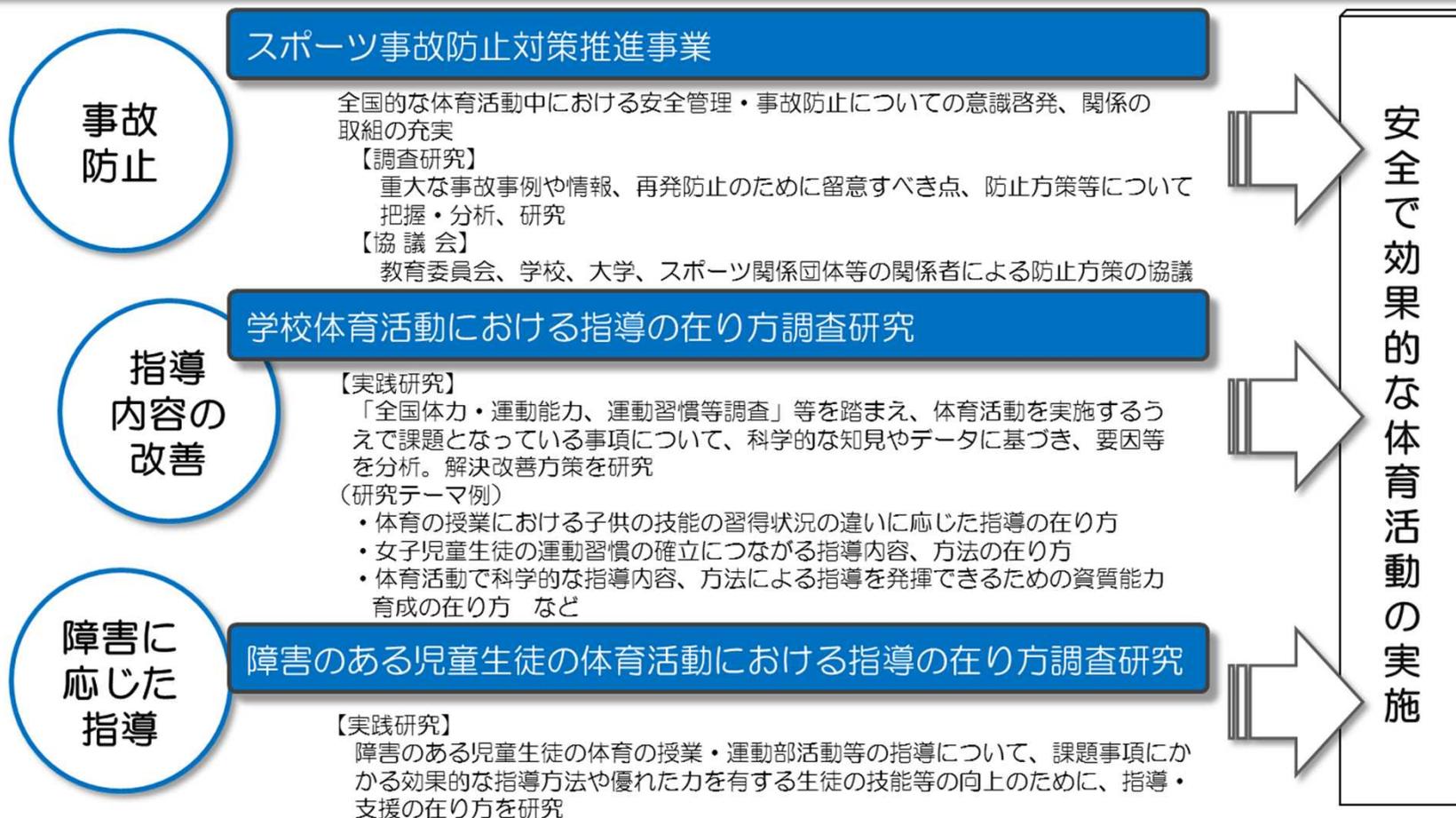
# 「子供の体力の向上」関連の国の施策－体育活動中の事故防止－

## 体育活動における課題対策推進事業

前年度予算額： 80,703千円

27年度予算額： 59,890千円

学校における体育活動は、体力向上、健康増進、競争心や協調、他を尊重する精神の涵養、人間関係の形成など、生涯にわたる豊かな生活を実現するための基礎となるものである。一方で、毎年報告される死亡等の重大事故の発生や体育授業の効果的な実施などの様々な課題も抱えている。これらの課題に対応し、安全でより効果的な体育活動を実施するための取組を推進する。



# 「子供の体力の向上」関連の国の施策－全国的な子供の体力の状況の把握・分析結果の活用－

## 幼児期の運動に関する指導参考資料作成事業

(前年度予算額：65,037千円)  
27年度予算額：53,768千円

### これまでの取組

幼児期に習得しておくことが望ましい基本的な動作などを示した「幼児期運動指針」を作成(平成23年度)

「幼児期の運動促進に関する普及啓発事業(平成24・25年度)」による成果の周知・活用の促進を実施

【課題】 指針を踏まえた幼児に対する運動の指導法や上記事業の成果の普及が望まれるところ、幼稚園等の教員は、園外で研修を受ける、他園等を参観することに時間的制約。

**各園において取組を進めるためには、各園において視聴できるような指導で模範となる実技をビジュアルに示した資料を作成し各園に配付することが有意義。**

### 今後の取組

#### 指導参考資料の作成

【有識者会議・資料の作成】

実践協力校において開発された運動指導プログラム及び実践の取組をまとめて指導参考資料(デジタル映像資料)を作成。

- 運動指導プログラムの提供
- 映像資料の提供

#### 幼児期運動指針を踏まえたプログラムの研究開発等

【実践協力校等 9か所】

日常の活動の中で取り入れられる効果的な行動パターン等を含んだプログラム、実践の取組を研究開発を行う。

# 「子供の体力の向上」関連の国の施策－運動部活動の改善充実－

## 運動部活動指導の工夫・改善支援事業

(前年度予算額 : 301,630千円)  
27年度予算額 : 301,630千円

### 現状

- 学習指導要領において、部活動を学校教育の一環として明確に位置づけ
- 平成24年12月の桜宮高校での体罰事案を発端として、運動部活動での体罰等が社会問題化
- 教員数減、高齢化により、練習や引率の負担増、加えて組織的な指導体制の整備、適切な指導内容・方法の定着、体系的な資質向上の取組が不十分
- 指導の高度化、専門化が求められる一方顧問の約半数は担当する運動部活動の競技経験なし
- 全国体力・運動能力等調査によると、一週間の運動時間の分布は二極化しており、特に、中学校女子のおよそ5分の1がほとんど運動していない

### 目指す方向

指導体制の工夫改善

生徒の自発的取組につながる  
指導内容・方法の研究・定着

体罰根絶と指導内容・方法の改善に  
つながる資質向上の場の整備

### 事業の概要

#### スポーツ医・科学等を活用した高度な 運動部活動指導体制の構築

##### 運動部活動等推進委員会

- ・スポーツ医・科学で先見的な知見を有する指導者等の確保及び整備
- ・取組の推進や事例研究等

報告 ↑ ↓ 方向性の示唆

##### 具体的活動

- ・退職教員等、教職経験者の活用
- ・スポーツ医・科学で専門的な知見を有する者の活用
- ・オリ・パラ出場経験者等、模範となる者の活用

都道府県・指定都市教育委員会(27箇所)

#### 女子生徒の参加しやすい運動部活動づくり等の 多様な運動部活動づくりに向けた 指導内容・方法の工夫改善

##### 地域実践研究協議会

- ・関係団体等との連携協力体制の構築
- ・取組の推進や事例研究等

報告 ↑ ↓ 方向性の示唆

##### 具体的活動

- ・女子の参加しやすい運動部活動づくりの実施
- ・選択の幅を広げるため中体連大会、インターハイ種目以外の運動部活動等の実施
- ・複数種目等、多様な形態の運動部活動づくりに向けた指導内容・方法の工夫改善

都道府県・市区町村教育委員会(18箇所)

#### 運動部活動顧問の資質向上

- ・運動部活動における体罰根絶にむけた取組の徹底と科学的指導方法等の習得による指導者養成を各競技毎に実施
- ・運動部活動の場における指導内容・方法の改善につながる資質向上のため、習熟度別研修等を実施

都道府県・指定都市教育委員会(67箇所)、民間団体(2団体)

#### 運動部活動指導者サミットの開催

- ・各委託事業の好事例の共有
- ・「運動部活動での指導のガイドライン」の具現化等により、体罰根絶にむけた指導の在り方の紹介
- ・体系的な資質向上のための研究協議等の場の整備

運動部活動における体罰を根絶するとともに  
適切な内容・方法による運動部活動を推進

# 「子供の体力の向上」関連の国の施策－武道指導の充実－

## 武道等指導充実・資質向上支援事業

( 新 規 )  
27年度予算額：194,821千円

### これまでの取組

平成23年度から小学校、平成24年度から中学校で現在の学習指導要領が実施され、体育関係では、武道等の必修化による国民の不安等の広がりを踏まえ、国が先導しながら全国的に安全かつ効果的な指導を図ってきた。これらの取組によりこれまでに死亡又は重大事故は生じていない。

### 課題

全国体力・運動能力、運動習慣等調査や学習指導要領の成果と課題の検証のための調査の結果から学習指導要領のねらいの実現や運動嫌いな子供を作らないようにするためには、全国的に一部領域等で質の高い授業の実践、若手教員をはじめとした指導者の資質向上や指導力強化が必要。

### 教員の資質向上・指導力強化

武道等や課題がみられる領域の指導を担う教員の資質向上を図る。

- 体育教員資質向上プログラム開発・実践
- 大学と連携した課題研究
- 域内合同体育研究会実施
- 優れた指導力を有する体育指導員派遣
- 指導力向上のための研修の実施
- 優れた外部指導者との連携した指導体制整備

### 特色ある武道指導の実践

- 中学校武道の指導の充実を図る。
- 地域や学校の実態に応じた特徴的な取組を実践研究
  - 実践研究の成果と課題の整理
  - 全国的な普及及び次期学習指導要領改訂に反映

### 支援体制の強化

関係団体等との連携による支援体制の強化のための取組

- 地域の指導者の指導力向上
- 教育委員会・学校との連携
- 指導資料作成等

### 指導成果の検証

- 中学校保健体育において武道等を必修化したことによる成果と課題の検証を踏まえた課題解決のための指導法等
- 大学、教育委員会、学校の連携・協力による調査研究

- 体育・保健体育の授業での子供の「できる」の実感の拡大
- 子供の運動・スポーツに対する意欲や関心の向上
- 学習指導要領のねらいの実現
- 学習指導要領次期改訂に向けた参考資料・エビデンスの収集

# 1 1 - 1 「子供の体力の向上」の施策マップ

## 施策の実施理由

子供にとってスポーツは生涯にわたってたくましく生きるための健康や体力の基礎を培うものである。  
一方で  
・子供の体力低下に歯止めがかかっているものの依然として低い状況で推移  
・積極的にスポーツする子供とそうでない子供の二極化が顕著



このため学校の体育に関する活動を中心に子供が十分に体を動かしスポーツの楽しさを実感できる取組を推進

## 活動内容

全国的な子供の体力の状況の把握・分析ならびに分析結果の活用

【全国体力・運動能力、運動習慣等調査】  
【地域を活用した学校丸ごと子供の体力向上推進事業】  
【幼児期の運動に関する指導参考資料作成事業】

体育・保健体育の充実

武道指導の充実

【武道等指導充実・資質向上支援事業】

運動部活動の改善充実

【運動部活動指導の工夫・改善支援事業】

体育活動中の事故防止

【体育活動における課題対策推進事業】

## 効果

子供の体力の向上の推進

学校における体育・保健体育の充実、運動部活動等の活性化により子供がスポーツの楽しさや喜びを味わえるようにする。

## 目標

学校の体育に関する活動や、地域スポーツを通じて子供が十分に体を動かし、スポーツの楽しさを実感できる取組を推進することにより、今後、子供の体力の向上傾向が維持され、確実なものとなるようにする。

子供が積極的に運動遊び等を通じてスポーツに親しむ習慣や意欲を養い体力の向上を図る。

教員の指導力の向上やスポーツ指導者の活用等による体育・保健体育の授業の充実、運動部活動の活性化等により、学校の教育活動全体を通じて、子供がスポーツの楽しさや喜びを味わえるようにするとともに、体力の向上を図る。